

## 4年間の思い出

学部紹介 Version

吉崎健二

生物生産学部学生 吉崎健二

「学生生活の思い出」というと必ずのように使われ、使い古された言葉「長く、短かった4年間」。4年といえは1,461日=35,064時間にもなる。これだけの膨大な時間を過ごしたのだから「思い出」という類のものには事欠かなく考えていたのだ。が、いざ文章にしようとするとなかなかこれが考えつかない。しかたがないので、受験生への学部紹介に多少イロをつけた程度の文章からなる「4年間の思い出」を。

まず1年生のころ、多くの学生にとって初めての独り暮らし。下宿探しも生活も決して楽ではないことを痛感。また落ち着かないうちにオリキャンに参加。なかなかおもしろかったのはいいが、雨にたたられテントの内は水びたし。まったく眠れなかったことはいまだに忘れない。そのまま流れるように(流され続けて)夏休みを過ごし、初めての試験期を迎えた。ここで、日ごろの行いを悔やみはしたが、反省はあまりせず、勉強に至ってはほとんど……？

2年生の後期になると、生生の学生はまだ新品？同様だった(当時築後半年)西条キャンパスへと移転。しかし西条での生活は悲しかった。まず交通の便の悪さ。それも半端ではなく、とんでもなく悪かった。休日の7時過ぎにはバスがなくなり、本数もむちゃくちゃ少なかった。今はいくらか便利になっているが、1時間に多くても2~3本にすぎない。大学の周囲はかなり寂しかった。これは今も変わっていない。そのためか否かは定かではないが、学内では、スポーツがかなり盛んであった。彼方此方で走る人が見られた。

その多くが「駅伝人」であった。そのほか、体育会主催のスポーツ大会(各種あり)に参加する機会も一気に増えた。

3年生になると、コースに所属。生生には食品・畜産・水産の3系があり、私は水産系へ。水産系の最大のヤマ場は「乗船実習」。近くは山口、岡山あるいは四国。遠くは、沖縄まで計3回、延べ1か月間もの船旅を満喫した。特に沖縄へ行く際は、とんでもなく安い「旅行」として喜ばれた。必要なのは保険料のみ。しかも朝・昼・夜の三食付き(無料)ときは。また、空も海も蒼く美しかった。海ガメあるいはイルカを見つけた者もあり、けっこう(かなり)楽しんでた。船酔いしない人は。しかし、人生は甘くはなかった。乗船実習は、夏休みあるいは秋休みを利用して行われ、したがって休みはかなりけずられた。さらに季節がら、台風に追いかけることも多く、その時の揺れ方は半端ではなかった。船酔いのひどい人にとっては……合掌。

4年生になると研究室へ配属。すぐに卒業論文にとりかかった……はずだ。が、今現在でも実験をやっているのはなぜ？

以上が私の学生生活の概略といったところ。これ以外には、たいした活動もやっておらず、学祭(西条祭)にほんの少し首を突っ込んだくらいだった。その点では、とりたてて充実した学生生活というものではなかったかも知れない。が、それでも少なからぬ知人・友人を得られたことは、ほんとうにかけがえのない最高の思い出であろう。